

【石に漱ぎ、流れに枕す(いしにくちすぎ、ながれにまくらす)】

晋書(西紀265年から420年にかけて中国に君臨した晋王朝の歴史を書いた書物)の孫楚伝に見えるお話です。

孫楚という人が、山の中に隠遁して自由な生活に入ろうと思い、その自然の生活を「石に枕し、流れに漱ぐ」と言う言葉で表現するつもりで、うっかり言い違えて、「石に漱ぎ、流れに枕す」とさかさに言ってしまったものです。

ところが、人にそれをとがめられますと、頭の回転の速い、理窟の達者な孫楚は、すました顔で、「石に漱ぐとは歯を磨くということだ。また、流れに枕すとは俗世間のいやな話を聞いた耳を洗い浄めることだ」と言ってうまく言いのがれた、というのです。

この故事から、“負け惜しみの強いこと”や“うまく言いのがれること”を「流枕漱石」というこの言葉で表わすようになりました。

今は余り使われなくなりましたが、“流石(流枕漱石)”と書いて“さすが”と読む使い方がありますが、これは「さすがに孫楚だけの事はある。うまく言いのがれたものだ」という事で使われるようになったものです。

また、明治の文豪、夏目漱石の“漱石”という号は、やはりこの故事から取られたもので、「さすがは漱石だ」と思わせるものがあります。

さて、流という字は沝(リュウ)と彳(サンズイ)とで作られた会意形声

字です。沝は育の士と同じで、子をさかさにした形で、氵は水の変形です。

つまり、沝は水と共に胎児が生まれ出ることを表わした字です。流産した胎児のことを“みずご”と言いますが、漢字で表わせれば“水子”であり、一字にすれば“沝”になりますから、“沝”は“流産”を表わした字だと言えます。

流は、水子が流れ出る意味の“沝”に彳をつけて“水が流れる”ことを表わしたものです。

硫は、“とけて流れやすい石”である“ゆおう”を表わしたものです。黄色い色をしているので“硫黄”と書き、“リュウオウ”と言ったのですが、“ユウオウ”となり“ユオウ”“イオウ”と言われるようになりました。

旒は、旗の意味の 𠂔 に沝をつけて作られた字で、“吹き流し”を表わした字です。中国では旗を表わす字が“旌・旄・旃”などたくさんあります。旗は四角い旗のことで、其(キ)が四角を表わしています。

(碁や将棋の其は、四角の盤を使うのでそれを表わしたものです)。

真心を“赤心”とか“丹心”といいます。“丹”は赤を意味します。旃は赤い旗のことで、旄は毛のついた旗です。旌旗は軍旗で、戦争で兵士を勇気づける旗です。兵士を生き生きとさせる旗ですから旌というわけです。